



NEDIA 通信

- 一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)発足
- JASVA Day 九州 2013 および九州 NEDIA キックオフを開催

- 関西 NEDIA
- 九州 NEDIA
- 東北 NEDIA
- 新入会員
- NEDIA Give & Take コーナー
- 事務局からのお知らせ

(一社)日本電子デバイス産業協会 事務局
〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 2-13
竹内ビル 202
TEL : 03-5823-4465 FAX : 03-5823-4475
E-mail : info@nedia.or.jp

■一般社団法人日本電子デバイス産業協会 (NEDIA) 発足



キックオフで挨拶される齋藤会長

(一社)日本半導体ベンチャー協会 (JASVA) は、2013年9月30日東京都文京区の林野会館にて開催された臨時社員総会で、名称を(一社)日本電子デバ

イス産業協会 (Nippon Electronic Device Industry Association : 略称 NEDIA) とする事を決めました。NEDIA は、半導体のみでなく、有機 EL、一般電子部品、電池等を含む電子デバイスを軸として、川上の製造装置、材料・部材から川下の IT に続く自動車、航空機、医療、環境エネルギーなどの新しい成長アプリケーションにわたる幅広い分野において横串的戦略組織を目指して発足しました。



臨時総会 (泉谷議長)

総会終了後、NEDIA 臨時理事会を開催して代表理事 会長 齋藤昇三ほかの役員体制を決定しました。また、記者会見を開催し齋藤昇三会長(株)東芝常任



記者会見（齋藤会長、泉谷副会長）

顧問、泉谷渉副会長(㈱産業タイムズ社代表取締役社長)が対応しました。その後、NEDIA キックオフを多数の来賓を含め100名を超える参加者で盛大に開催しました。

NEDIA キックオフは泉谷副会長が司会で、琴の演奏も入り、来賓、NEDIA 役員などのご挨拶をいただき大いに盛り上がりました。

来賓には、経済産業省商務情報政策局デバイス産業戦略室長の宮崎貴哉様を始め、大韓民国

大使館も含め、10を超える行政、団体の幹部をご招待させていただき、NEDIAの発足・発展についての励ましの言葉をいただきました。

NEDIA キックオフは最初に齋藤省三会長のNEDIAに対する抱負及び”半導体は社会のコマ”という表現も含めた挨拶を皮切りに、主賓の宮崎室長にお



盛況のキックオフ会場

祝いのお言葉をいただき、ついで岡本裕副会長(ソニー㈱業務執行役員)の発声により乾杯



招待団体を代表して挨拶の SEMI ジャパン中川代表

となりました。その後の歓談中にも、SEMI ジャパンの中川洋一代表、佐藤和樹副会長(㈱インターテック代表取締役)などの挨拶があり、最後に北村隆幸理事(メテック㈱代表取締役)が閉会の挨拶を行い、NEDIA キックオフは成功裏にお開きとなりました。

今後の NEDIA の発展のために、皆様方のご支援及び諸活動への参画をお願いしたく、よろしく申し上げます。

■JASVA Day 九州 2013 および九州 NEDIA キックオフを開催

2013年10月24日(木)に(財)北九州産業学術推進機構(FAIS)技術開発交流センターにおいて JASVA Day 九州 2013 を開催しました。台風 27 号が南海上にあり雨が降りしきる中、韓国の大邱テクノポリスチーム長の崔(チェ)様も含めた 69 名の多数の方に参加いただきました。

最初に九州 NEDIA 代表の櫻井一郎氏(櫻井精技㈱代表取締役)から、JASVA Day 九州という名称での開催は今回が最後となるが、今後も NEDIA として

開催していくという開会挨拶があり、「半導体アプリの新潮流」をテーマとしたセミナーを開始しました。



㈱堀場製作所 理事 佐竹司氏

最初の講演は、「HORIBA の方向性：半導体、エネルギー分野などへの事業展開」と題し、

佐竹司氏(㈱堀場製作所理事 経営戦略本部 科学・半導体事業戦略室 室長)にご登壇いただきました。

ご講演の内容は、堀場製作所殿のコアである分析計測事業の特徴は、事業領域は世界規模でも小さい事業、分析計測関連市場は無限ということで、自動車、環境プロセス、半導体、医療、科学の各分野において世界中に研究・開発、生産拠点を 27 か国、32 拠点を展開し、「ワンカンパニー」マトリクス経営を推進し

ているという説明がありました。

また、1953年創業以来、技術とニーズの結合、技術リソースの拡充、事業買収による拡大の時期を経て、現在は多方面の技術および応用分野を確立しているということです。事業展開の根底を支えるものは「おもしろおかしく」であり、テーマは足を使ってグローバルに探して、未来のマーケットは自らが創造するという理念で、成功するにはタイムリー性、ビジネスリーダーの発掘、市場にあったビジネスモデルの選択が重要との説明がありました。

さらに、半導体プロセスプラズマモニター、半導体プロセスガスモニター、ナノ粒子測定装置等のグローバル製品開発レビューの実例、R&Dのポテンシャルを上げるための暗黙知と形式知の可視化などの各種施策、シールドガスを照準とした米国での事業買収等の具体的施策にも触れていただき、大変示唆に富むご講演でした。



ファーストゲート(株) 社長 土肥猛氏

つづいて、「半導体ベンチャーの展開と医療への取り組み」と

題し、大学卒業後34年にわたり半導体製造装置ビジネスを続けられ、その中で2000年に現在の会社を設立された土肥猛氏(ファーストゲート(株)代表取締役社長)にご講演いただきました。

全世界に目を向け、スピード第一で”Only One と Number One 商品”のみを扱いお客様に提供するをモットーに会社運営をされてきたということです。テフロン性フロートメーター、精密流量コントロールバルブのトップメーカの Futurestar 社の製品、テフロン製薬品供給ポンプについてUS市場で50%以上のシェアを持つ White Knight 社の製品などのトップ製品を扱ってビジネスをされています。

さて、医療ビジネス取り組みのきっかけは、超解像技術を使った内視鏡画像解像度改善技術への展開であり、内視鏡の機種変更の高コスト性および小口径プローブでの小口径レンズの画像解像度が低いという問題に着目されたということです。内視鏡メーカは、国内ではオリンパス、富士フィルムがあり、ドイツ、中国、イスラエルにも有力なメーカがありますので、そういった企業をターゲットに進めている。医療機器は薬事法による認証が必要でクラスⅡに分類される対外診断用医薬品は登録認証機関による製造販売認

証が必要とのことです。

世界最大の MEDICA(国際医療機器展)への出品および学会併設の展示会の活用を行っているが、医療機器のユーザーは”医者”という観点でのアプローチが重要とのこと。最後に、半導体の常識のクラス1のクリーン環境とは大きく異なり、細菌の混入は駄目だが、異物に対しては半導体レベルは不要とのお話をされました。



(株)産業タイムズ社 社長 泉谷渉氏

セミナーの最後の講演は、「半導体は新アプリ創出で40兆円マーケット拡大」と題し、1977年以来30年以上にわたり第一線を走ってきた国内最古参の半導体記者と言われており、NEDIA 副会長でもある泉谷渉氏(株)産業タイムズ社代表取締役社長)にご登壇いただきました。

半導体産業の現状のアプリの出口は90%がITであるが、ITは最大市場のPCが350M台レベルで推移するも今後減少傾向となる。スマートフォンは現在10億台に迫る勢いがあるが、多く見積もっても20億台が限界

であり、数年のうちに限界に達するだろう。したがって IT は成熟化の時を迎え、半導体市場規模は 2005 年からの 10 年間は 25 兆円程度の規模で推移するだろうとの現状の停滞感を述べられました。

しかし、2016 年以降は、医療、環境エネルギー、次世代自動車などの新アプリが成長し始めて、2030 年には半導体市場は 40 兆円に成長することは間違いないと強気の見通しを語られています。世界半導体 2 位のサムソンは、医療に力を入れており、世界の医療展示会のブースで最大のエリアを占めており、3 位のクアルコムもメディカル対応の組織を作っているように半導体大手が次のアプリとして狙っており、また日本でも最先端重粒子線治療装置の設置も進んでいることを示されました。

シェールガス革命は、燃料および化学材料のコストを圧倒的に低下させ、米国の製造業の復活を軸に世の中は変わっていく。これは、関連技術を持った日本企業への追い風になる。アプリでも燃料電池車の普及および航空機産業の拡大により、それに強みを持つ日本企業にとっては大きなチャンスとなる。こういったアプリの実例を示されて最後に、NEDIA はそういった成長アプリを含んだ横串の戦略集団であり、日本の産業の発展に尽して行くということで、講演

をしめくぐられました。



多数ご出席のセミナー会場

セミナーの最後に、九州 NEDIA 副代表の丸田秀一郎氏 (FAIS 半導体技術センターセンター長) が、九州 NEDIA の活動を積極的に展開して行くということで閉会挨拶をされました。



九州 NEDIA 櫻井一郎 代表

セミナーの終了後、場所をとなりの交流室 A に移し、「九州 NEDIA キックオフ」開催となりました。キックオフの司会は泉谷副会長が務め、まず九州 NEDIA の櫻井代表が主催者挨拶を行い、つづいて来賓挨拶と



来賓ご挨拶 北九州市 松崎茂 副市長

して北九州市の松崎茂副市長から九州 NEDIA が北九州市を始めとして九州全体の半導体産業をけん引する存在として発展して行くよう、激励のお言葉をいただきました。



乾杯のご発声 FAIS 國武豊喜 理事長

つねづね会場準備等で大変お世話になっています FAIS 國武豊喜理事長に、産官学一緒になって頑張っていこうというお言葉と共に乾杯の発声をしていただき、賑やかな歓談が始まりました。

歓談の途中においても、韓国の崔チーム長およびアスカコーポレーション代表取締役の阪和彦氏に激励のお言葉をいただき、キックオフは大いに盛り上がりました。最後に、九州 NEDIA の石井正明副代表 (アサヒエンジニアリング代表取締役社長) の閉めの挨拶により、九州 NEDIA キックオフは成功裏にお開きとなりました。



キックオフ会場の様子

■関西 NEDIA スクラッチパッド

関西 NEDIA 代表 南部 修太郎

この度、関西 NEDIA 代表を
 拝命することになりました。
 まだ、なったばかりで、
 あまり良く全体像が見えていな
 いのですが、
 とにかく、いろんな方のご意見
 も伺いながら、
 新しく魅力的な NEDIA になれ
 るよう努力したいと思っていま

す。
 特に、「新規事業開発」は今後の
 日本の成長戦略の要ですが、
 正直言ってその開発の現場は、
 課題山積みではないでしょう
 か？
 その現場に係る一人として、
 是非、今後、NEDIA の活動を

通じて、
 様々な方々
 のご協力も得な
 がら、
 少しでもその
 課題解決に貢
 献できればと
 思っています。



■九州 NEDIA スクラッチパッド

九州 NEDIA 代表 櫻井 一郎

歴史ある JASVA が、三つの
 団体と合流し新生 NEDIA に生
 まれ変わりました。これに伴い
 九州 JASVA も九州 NEDIA と
 して新しい一步を踏み出すこと
 になりました。

アサヒエンジニアリングの石
 井社長と北九州産業学術機構の

丸田センター長に副代表に就任
 して頂き体制が整いました。
 九州は、研究機関はじめ、電
 子デバイス、装置、材料、実装
 まで深くまた幅広く産業が集積
 しています。この九州の特性を
 活かし、世界で勝つ電子デバイ
 ス産業の発展に貢献することを

目的に活動を行
 ってまいります。
 皆様の積極的な
 ご参加、ご支
 援をお願いします。



■東北 NEDIA スクラッチパッド

東北 NEDIA 代表 川添 良幸

東北 NEDIA では、会員確保
 を最重要課題と認識しておりま
 す。東北は2年半前の東日本大
 震災で壊滅的な打撃を受けまし
 たが、逆にそれを糧に頑張っ
 ています。楽天の優勝が象徴的
 で、あんなに弱いチームが何故勝
 てる？と言う状態を実現してい
 ます。想定外は悪いことばかり
 はありません。アベノミクスは

中央の大きな企業のみが潤う政
 策の様にも見えますが、「上に政
 策あれば、下に対策あり！」で、
 地方も負けずに仕事をしていま
 す。NPO 科学協力学際センター
 が JASVA から継続的に事務所
 を引き受け、地域振興のため関
 係地元企業の積極的な参加を基
 盤に、今後の発展を期したいと
 思いますので、会員の皆様のご

支援を是非よ
 ろしく願
 います。



■新入会員

2013年10月に下記の方の新入会が理事会承認されました。

<正会員>

◇(株)ダン・タクマ

ケミカルエアフィルタ関連機器、クリーンエア装置、N2置換式クリーンオープン、磁場シールドクリーンルームの製造販売

◇(株)テラプローブ

ウエハテスト事業、ファイナルテスト事業、CSP 事業、開発受託事業、その他テスト周辺事業・技術開発

◇アスカコーポレーション(株)

リレー部品、リードフレーム、

ウエハ関連のめっき業

◇(株)久世ベローズ

金属ベローズ、ステンレスパイプ、ステンレスフィティング

◇(株)ミズサワセミコンダクタ

半導体及び各種モジュール

◇(株)ズキ

半導体製造装置及び組立、検査装置用消耗部品の販売及び輸出輸入業、他

◇エスティケイテクノロジー(株)

IC 検査装置の設計、製造
IC 検査、半導体製造装置の製造等

◇宇部マテリアルズ(株)

マグネシアクリンカー、水酸化マグネシウム、酸化マグネシウム、生石灰、消石灰、タンカル、超高純度炭酸カルシウム、その他マグネシウム系、カルシウム系関連製品の製造、加工及び売買

<賛助会員>

◇(株)UBIC パテントパートナーズ

知的財産権の譲渡及びライセンス交渉支援、調査、コンサルティング等

<個人会員>

川西 剛

■NEDIA Give & Take コーナー

■事務局からのお知らせ

●関西 NEDIA キックオフ・セミナー/懇親会のご案内

2013年9月30日付で電子デバイス関連の最大団体となる一般社団法人日本電子デバイス産業協会(NEDIA)が設立されました。

NEDIA はいわゆる業界団体とは異なり、電子デバイス産業の川上から川下にいたる横断的

注：このコーナーは会員から売り込みたいと思う製品・サービス・技術等に関する情報、または探している製品、サービス、技術等に関する情報を集め、載

せるコーナーです。

注：このコーナーは会員から売り込みたいと思う製品・サービス・技術等に関する情報、または探している製品、サービス、技術等に関する情報を集め、載

組織です。
NEDIAの母体となる組織は、一般社団法人の日本半導体ベンチャー協会(JASVA)です。
JASVAは2000年の発足から13年間にわたり、多くの関係者の支援を取り付け様々な活動を展開してきました。これが名称変更し、NEDIAに生まれ変わりました。この新生NEDIAに、NPO法人日本半導体エンジニアリングネットワーク協会

(JSENA)および日本半導体部品工業会(JAST会)の2団体が合

せるコーナーです。
情報の受け付けは随時おこなっていますので、事務局あて連絡をお願い致します。

流し、さらに、日本EDAベンチャー連絡会(JEVeC)も合流して、4団体統合による新組織となりました。なお、当初は約200社での旗揚げとなりますが、数年内には500社まで拡大していき、いわば我が国最大の会員数を持った電子デバイス関連産業の横断的、戦略的、そして草の根運動的な組織として、様々な活動を行っていく考えです。

NEDIAの活動は、次世代環境車、宇宙航空産業、医療産業、環境エネルギー、ロボット産業、

次世代 IT 産業をトータルカバーし、開発およびマーケティングで先行する仕組みづくりを提案していきます。具体的な活動として、ベンチャー育成、人材教育支援、技術開発協調、商談マッチング、セミナー・カンファレンス・展示会など、幅広く展開していく計画を立てています。

そこで、関西での NEDIA の活動拠点である関西 NEDIA の設立を記念して 11 月 20 日にキックオフ・セミナーおよび懇親会を、京都において下記の要領で、開催することになりました。日本の電子デバイス関連産業の

将来に関心のある方には、ぜひともご出席を呼びかけたいと存じます。

なお今回は、NEDIA 会員外の方も参加料は懇親会も含めて全部無料でご参加いただけます。(ただし、事前申し込みが必要です。)

・参加お申込：メールにてお申込みください。確認後、メール返信いたします。

h-analog@npo-hab.org

(関西 NEDIA 事務所)

---関西 NEDIA キックオフ・セミナー/懇親会 参加希望---
会社名・団体名：

部署ご役職：

氏名：

連絡先：

懇親会：参加 ・ 不参加

■定員 70 名

【締切日 11 月 13 日 (水)】

※申込締切日後も、定員に余裕があれば受付を行いますのでお問合わせ下さい。

・参加費：講演会、懇親会とも無料

皆様のご参加をお待ちしています。

関西 NEDIA キックオフ・セミナー/懇親会

■日時：2013 年 11 月 20 日 (水) 14:00~17:00 第 1 部、17:30~19:00 第 2 部

■会場：京都テルサ <http://www.kyoto-terrsa.or.jp/> 東館 3 階 D 会議室

◆第 1 部 関西 NEDIA キックオフ・セミナー

[司会：泉谷 渉氏 (株)産業タイムズ社 代表取締役社長) NEDIA 副会長]

「関西のエレクトロニクス・エネルギー技術分野のポテンシャルと近畿経済産業局の取り組み」

西野 聡 氏 (近畿経済産業局 地域経済部 次世代産業課長)

「世界トップシェアを持つソニーの CMOS センサーの事業戦略」

上田康弘 氏 (ソニー(株) 業務執行役員 SVP デバイスソリューション事業本部
イメージセンサ事業部長)

「日本の電子デバイス産業の将来性と東芝の半導体戦略」

齋藤昇三 氏 (株)東芝常任顧問・前副社長) NEDIA 会長

◆第 2 部 関西 NEDIA キックオフ・懇親会

[司会：南部修太郎氏 (株)アセット・ウィッツ代表取締役) 関西 NEDIA 代表]

懇親会 (会場：京都テルサ 東館 1 階 レストラン朱雀)